キラルアンモニウムを用いた層状ハロゲン化金属 ペロブスカイトの結晶構造と誘電応答

¹東北大院工,²東北大多元研 〇高橋正樹¹,星野哲久^{1,2},武田貴志^{1,2},芥川智行^{1,2}

Crystal Structures and Dielectric Responses of Layered Metal-Halide Perovskite Including Chiral Ammonium

Masaki Takahashi¹, Norihisa Hoshino^{1, 2}, Takashi Takeda^{1, 2}, Tomoyuki Akutagawa^{1, 2}
¹ Graduate School of Engineering, Tohoku University, Japan
² Institute of Multidisciplinary Research for Advanced Materials, Tohoku University, Japan.

[Abstract] Organic-inorganic hybrid materials can possess both the flexible organic and rigid inorganic structural frameworks, whose physical properties can be controlled by chemical modifications with a wide range of combination between inorganic metals and organic cations. Especially in, a few two-dimensional layered perovskite crystals showed the ferroelectricity due to the order-disorder type phase transition of the rotational motion of ammonium cations ^[1]. Herein, we focused on chiral ammonium cations for realizing uni-directional molecular rotation in solids. The layered perovskite crystals of *bis*(*R*-3,7-dimethyloctylammonium)[MX₄] (1; M = Cu, X = Cl, 2; M = Cu, X = Br, 3; M = Pb, X = Cl), appeared thermal anomaly around 330-420 K in the DSC measurements. PXRD measurements of these crystals revealed the formation of two-dimensional metal-halide perovskite layers. Dielectric responses of compressed pellets 2 and 3 showed the enhancement, whereas the temperature-dependent PXRD revealed structural change around the phase transition.

【序】有機-無機ハイブリッド材料は、柔軟な有機材料と剛直な無機材料の両方の特性を合わせ持ち、その構造と物性は多様な有機および無機部位の組み合わせにより制御可能である。例えば、有機アンモニウムとハロゲン化金属から成る分子性結晶では、1~3次元の多様なペロブスカイト構造を形成する。中でも、2次元層状ペロブスカイト結晶は、層状 MX₆が形成する空孔に有機アンモニウムが静電的に結合し、有機アンモニウムの分子回転運動を伴う秩序-無秩序型相転移による強誘電性が報告されている^[1]。本研究では、未だその実現が困難である一方向分子回転運動を目指し、回転子としてキラル有機アンモニウムである(*R*)-3,7-ジメチルオクチルアンモニウムを導入した2次元ペロブスカイト構造を有する分子性結晶を作製し、その結晶構造および誘電応答を評価した。

【実験】結晶 1-3 は、ハロゲン化アンモニウムおよび ハロゲン化金属を濃ハロゲン化水素酸溶液中で加熱溶 解させ、自然放冷することにより成長させた。得られ た結晶の相転移挙動は、DSC 測定および温度可変 PXRD 測定から評価した。結晶 1-3 の構造変化と誘電 応答の温度依存性は、粉末試料を加圧成形したペレッ ト試料を用いて温度可変インピーダンス測定から行っ た。



【結果・考察】DSC 測定から、結晶 1-3 は全て 330-420 K の範囲で可逆な相転移を示し、低温相 (LTP) および 高温相 (HTP) が存在した(Fig. 2)。結晶 1-3 の分子配列 様式を調べるために PXRD 測定を行った。結晶構造は、 直 鎖 の 有 機 ア ン モ ニ ウ ム を 導 入 し た (C₈H₁₇NH₃⁺)₂[CuCl₄] (4) の PXRD パターン^[2]と比較す ることで同定した (Fig 3)。結晶 1-3 の PXRD パターン は、結晶 4 と類似していることから、結晶 4 と類似の 2 次元のペロブスカイト構造の形成が示唆された。相

転移の前後における構造変化を調べるために温度可変 PXRD 測定を行った (Fig. 4)。相転移前後において、PXRD パターンに大きな変化は見られなかったことから、相転移前後でパッキング構造の大きな変化を伴う構造相転移は生じていないと考えられる。一方、回折 LTP から HTP への相転移で消失し、対称性の増加が確認された。結果、HTP では有機アンモニウムの熱励 による分子運動が生じ、構造の対称性の増加が生じたと考えられる。

相転移に伴う誘電応答の変化は、 インピーダンス測定から評価した。 2 および 3 では、相転移温度付近 で温度上昇に伴い誘電率の実部が 増加した (Fig. 5)。典型的な強誘電 体では、相転移温度付近で強誘電 体一常誘電体相転移に伴う誘電異 常が出現する。結晶 2 および 3 で は、双極子モーメントの変化を伴 う分子運動が誘電異常を発現させ たと考えられる。

以上、キラルな有機アンモニウ ムを含むペロブスカイト結晶 1-3 は、2次元層状構造を有し、結晶 2 および3では、DSCで見られた 相転移温度付近で誘電異常を示す 事から、分子運動の存在が確認さ れた。

【参考文献】

[1] W. -Q. Liao *et al.*, Nature Comm. **2015**,*6*.

[2] Liu, Y. P. et al., J. Thermal Analysis, 2012, 109, 287.





Fig. 3 PXRD patterns of **1-3** and simulated PXRD pattern of **4** (left). Crystal structure of **4** (right).



Fig. 4 Temperature-dependent PXRD patterns of a) 2 and b) 3 (Red and blue patterns represented the LTP and HTP, respectively.)



Fig. 5 Real part dielectric constants of a) **2** and b) **3**. The dashed lines represented the phase transition temperature in DSC.